

平成28年度 京都府立大江高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（最終評価）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>【知】・【情】・【意】・【体】</p> <p>1 学習と進路【知】 生徒自ら学ぶ意欲・態度を育てる。基礎基本の徹底を図り、自ら希望進路を切り拓く力をつける。</p> <p>2 豊かな情操【情】 思いやりの心を持ち、相手の心身の痛みのわかる情操豊かな人間性を培うとともに、ボランティア精神を養う。</p> <p>3 人権の尊重【意】 望ましい集団生活を通して、社会の成員としての資質を養い、自他の人権を尊重する精神を培うとともに、正しい情報の選択ができる生徒を育成する。</p> <p>4 健康と安全【体】 生命を大切に、心身ともに健康で安全に生きぬくたくましい力を育むとともに、環境教育にも力を注ぐ。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 進学希望者の中には、後期入学試験まで挑戦し、第1希望の大学に合格した者がいた。また、8年連続して就職希望者が全員内定となるなど、進路実現で一定成果を上げることができた。</p> <p>(2) 府立高校特色化事業として取り組んだ「TANTAN見本市」や「ブラみやつ」などの地方創生に係る取組を予定通り実施することができ、本校の特色化を推進することができた。</p> <p>(3) 「法やルールに関する教育」や「主権者教育」では、地元市議会議員との懇談会や模擬投票を取り入れた授業の実施など先進的な取組ができた。</p> <p>(4) 学習指導・進路指導に関する教職員研修を実施した。また、府教委より指導主事を招へいし、授業改善に取り組んだ。</p> <p>(5) ワープロ競技、簿記競技、スピーチコンテストの全国大会に府代表として出場を果たした。プラスバンド部が地域のイベントに数多く出演するなど活躍した。部活動全般の活発化に繋げたい。</p> <p>(6) 1学期末の三者懇談や進路四者面談を実施し、家庭との連携を図った。また、学校により・ホームページ・お知らせメールの発行や更新の回数を増し、広報活動に努めた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 本年度入学生が両学科とも定員を下回った。</p> <p>(2) 3マナーアップ運動を実施したが、十分な効果が上がることができていない。とりわけ通学上のマナーアップが喫緊の課題である。</p> <p>(3) 「生徒を伸ばす学校づくり」を継続し、基礎・基本の定着と家庭学習習慣の定着を目指し、一人一人の学力を向上させる必要がある。</p> <p>(4) 本校の特色化の一環となるよう、生徒会活動・部活動・ボランティア活動を活発化させる。</p> <p>(5) 安心・安全な学校環境の構築に一層努力する必要がある。とりわけ、防災に係る教育と交通安全に係る指導を強化する必要がある。</p> <p>(6) 教育活動の広報を通じて、本校への理解を促し生徒募集に繋げる。</p>	<p>1 研究指定「法やルールに関する教育」を推進することで、3マナーアップ運動を継続して取り組む。 (1) 通学上のマナーアップ 公共交通機関での乗車マナーの向上及び通学路でのマナーアップによって、規範意識を高める。</p> <p>(2) 校内でのマナーアップ あいさつの励行、携帯電話の使用、ゴミ・環境問題など、校内でのマナーアップに努め、安全・安心で清潔な学校環境づくりに取り組む。</p> <p>(3) 授業のマナーアップ 積極的な授業態度、家庭学習の習慣化により、学力の向上を目指し、希望進路の実現を図る。</p> <p>2 「生徒を伸ばす学校づくり」を目指す。 きめ細かく粘り強い指導により、基礎・基本を徹底するとともに家庭学習習慣を定着させ、学力の向上を図る。全生徒が「第1希望の進路が実現でき、本校に入学して良かった」と実感できるよう、きめ細やかな学習指導と粘り強い進路指導を行う。</p> <p>3 安心・安全な学校環境の構築に取り組む。 いじめの防止に取り組むとともに、防災に係る教育と交通マナーや交通安全に係る指導を強化する。</p> <p>4 「地域創生推進校」の指定事業を推進する。 各種指定事業を教育課程に位置づけ、特色ある教育を推進し、地域の未来の担い手を育成する。</p> <p>5 戦略的な広報活動を展開し、選ばれる学校を目指す。 両学科の内容の充実を始め、中学生・保護者・地域から選ばれる学校を目指す。本校の特色を的確に中学生・保護者・中学校に広報する。とりわけ中学校訪問の回数を増やし、積極的な広報活動を行う。</p> <p>6 生徒会活動・部活動などの活性化を目指す。 生徒会活動・部活動を奨励し、一層の活性化を目指す。また、ボランティア活動を多くの生徒に経験させ、「達成感」や「自己有用感」を感じ取らせる。</p> <p>7 20年後を見据えた学校改革案の策定を行う。</p>

評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価		成果と課題
組織運営	学校改革及び学校特色化の推進	<p>■学校経営戦略会議を昨年度に引き続き設置し、生徒減少期における本校の在り方の検討を進める。特に本校が現在抱えている課題を踏まえ、20後を見据えた学校改革を推し進める。</p> <p>■京都フロンティア校（地域創生推進校）指定校として、地域と連携した取組や学校間・校種間が連携した取組を授業に取り込むことで、地域の活性化につながる学習内容を充実させ、地域の未来を担う生徒を育てる。</p> <p>■普通科・ビジネス科両学科の特色を生かした教育活動の充実を目指して研究を進める。特に学校設定科目を中心として魅力ある授業を一層充実させる。</p> <p>■本校の特色化を進めるために、教育課程を検討し、見直しを進める。</p>	C	B	<p>■学校経営戦略会議については、今後予想される京都府北部地域の府立高校再編を視野に入れ、京都府教育委員会へ新学科を目指した提案までは行ったが、詳細な部分にまでは至っていない。</p> <p>■京都フロンティア校（地域創生推進校）として、学校設定科目を中心に教育課程の一環として地域、学校間、大学等との連携したプロジェクト型の取組を進めることができた。昨年度以上に学校特色化や生徒のキャリア形成につながる授業の魅力化につながることが評価され、キャリア教育優良学校として第10回文部大臣表彰を受けた。</p> <p>■将来の学科改編を見据えて、教育課程の見直しも行った。今年度の取組状況を反映させたさらなる見直しが必要である。</p> <p>■本校の取組が昨年度のおよそ倍の回数の新聞報道で取り上げられた。また、プロジェクトグループによる各種説明会等での取組や出前授業等で、学校全体として広報に取り組むことができた。しかし、本校の取組に対する認知度は低く、生徒募集の改善には課題が残る。広報の手段についても検討が必要である。</p>
	積極的な広報活動の展開と入学希望者の増加	<p>■広報紙発行、メディアリリース、ホームページの更新等を積極的に行う。</p> <p>■広報活動体制（プロジェクトグループの設置）を充実させ、各種説明会やオープンスクール等の内容を充実させることで中学生・保護者・地域の本校への理解を深める。</p> <p>■出前授業を中心とした中学校訪問、また本校での体験授業を充実させることで幅広い層に本校の魅力伝える。</p>	B		

学習指導・進路指導	「生徒を伸ばす学校づくり」の強化	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒一人一人の興味・関心や能力・適性に応じた、また体験活動やアクティブラーニングを取り入れた教育を行うことで、自ら考える力を育てる授業を目指す。 ■積極的に研究授業や各種研修に参加することで教科指導力の向上を図り、「分かる授業」を展開する。 ■学習面で課題を抱えている生徒に対して、補習等の指導を粘り強く行うことで、原級留置者数・進路変更者数を減らす。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ■学校設定科目はもちろんのこと普通科目においても体験活動やアクティブラーニングの要素を取り入れた授業にチャレンジしている。しかし、学習に対する関心や意欲が低い生徒に対して自ら考える授業に向けた工夫が必要である。特にスマートフォンの利用マナーについては課題が残る。 ■学習に課題を抱える生徒に対しては、定期考査前、長期休業中に補習を実施したが、十分に効果があったとは言いがたい。低学力で入学してくる生徒に対する学び直しも含めた指導体制を見直さなければならない。 ■家庭学習の不足を解消するために各教科で小テストや課題、学習プリントに取り組みさせたが、この点でも、取組に対する生徒間の意欲の差異が大きく、これまで以上にきめ細かい指導が必要である。 ■各種コンクールへの参加や検定試験の受検を促すことができ、簿記・ワープロ・英語スピーチにおいて全国大会出場を果たした。ただし、資格取得については一部の生徒に集中しており、全体的なレベルアップに向けた指導をしなければならない。 ■進路指導部と各学年部が連携して、キャリア教育・職業教育も含めた進路指導を系統的に、ほぼ計画的に実施できた。
		<ul style="list-style-type: none"> ■課題や小テストを課したり、学習プリントに取り組みせたりすることで家庭学習と基礎学力の定着を図る。 ■読書、積極的な資格取得、コンテスト・コンクールへの参加等を奨励・指導することで、表現力や自己有用感につなげ、希望進路実現の一助とする。 	B		
		<ul style="list-style-type: none"> ■3年間を見据えた系統的・計画的な進路指導を行い、低学年から進路意識の啓発に努める。特に個別面談・指導等によりきめ細かい指導を行う。 ■キャリア教育・職業教育を充実させ、実践や体験から望ましい職業観・勤労観を育てる。 	B		
生徒指導	3マナーアップ運動の継続	<ul style="list-style-type: none"> ■通学上、授業、学校行事等あらゆる教育活動を通じて、一貫したマナーアップの指導に取り組む。特に「乗車マナー」、「あいさつ」、「身だしなみ」、「言葉使い」、「携帯端末の使用」、「清掃活動」等の社会生活を送る上で必要な基本的なマナーを全教職員体制でひとつひとつ丁寧指導する。 	C	C	<ul style="list-style-type: none"> ■通学上のマナーアップに向けて京都丹後鉄道と連携し、ホームでの乗車前指導、実際に乗車しての指導を行い、他の利用者からの苦情は減少した。年度当初は生徒指導事業が目立ったが、学期の進行に伴い、日常生活は落ち着いてきた。しかし、依然としてスマートフォンの利用マナー、身だしなみ、言葉使い、教室の環境美化などには課題が残る。 ■法やルールに関する教育研究指定校として2年目を迎え、特に主権者教育を中心に充実させることができた。5月には高校生フレッシュ議会に参加、6月には福知山市長選挙、7月には参議院議員選挙を題材に校内模擬選挙を行い、政治参画への意識を高めることができた。また、提言の技法ではマナーについてディベートに取り組み、ルールとマナーについて考えさせる機会を持つことができた。一方、防災教育については不十分であり、改善を要する。 ■地域のイベント等のボランティア活動、TANTAN見本市など自主活動を積極的に取り組ませることができた。特に生徒会は意欲的に活動し、募金活動や防災に関するイベントを企画するなどした。弓道部では弓道教室を開催できたが、部活動全体の活性化は不十分である。
	安心・安全な学校の構築	<ul style="list-style-type: none"> ■道徳教育・人権教育・主権者教育の視点から「法やルールに関する教育」に関する研究を進める。特に社会の成員としての生き方、生命の大切さ、交通安全について地域、PTA、警察等ととも連携して、教育を推進する。 ■防災訓練を中心に防災教育を推進する。 	B		
	課外活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ■部活動を奨励し、活性化を図る。また、地域や関係団体・機関と連携し、ボランティア活動や本校独自の取組に積極的に参加させることで、自己有用感を実感させる。 ■生徒会を中心に学校行事等を運営させることで、自主・自治活動の充実を図る。 	B		
保健・環境	健康相談の充実と要支援生徒に対する支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ■健康診断と事後指導を徹底し、また保健だよりやスクールカウンセラーの情報提供を定期的に行うことで生徒の心身の健康に繋げる。 ■要支援生徒に対してスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーなどの専門家と連携しながら学校全体が一丸となって支援体制を整え、生活面・学習面ともに充実した学校生活になるよう援助する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ■健康診断受診については予定どおりできたが、要再検査生徒の受診率が低かった。保健だよりで健康に関する広報を行うことができたが、2月に2年生でインフルエンザ罹患者が多数となり、2年生全クラスで3日間の学級閉鎖措置を取った。 ■要支援生徒に対しては定期的に教育相談会議を開催し、またスクールカウンセラー、まなび・生活アドバイザーと連携して支援した。一方、依然として課題を抱える生徒は潜在しており、その把握と支援に努めなければならない。 ■施設・設備の点検については計画的に実行することができたが、清掃活動や利用マナーについてはさらに啓発・指導が必要である。
	教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■定期的な安全点検と危険箇所等に対する迅速かつ適切な施設管理、また老朽化備品の廃棄及び備品整備を行うと同時に、清掃活動をはじめとする教育活動の中で環境整備の意識を啓発する。 	B		
学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ■学力に個人差がある中で、個人の力を伸ばし、社会に出てから必要な基礎力を身に付けるための指導の工夫や、また様々な面でのマナーアップを図るために、生徒たちの自覚を育むような指導の工夫がさらに必要である。一方、丁寧かつ粘り強い指導や地域と連携を進められていることは評価できることであり、その部分をさらに発信し、大江高校の魅力を伝えてもらいたい。 ■地方創生教育をさらに発展、深化させていただきたい。今後も地域と触れ合う中で、生徒一人ひとりが少しずつ大江町の一員であるという自覚を感じ、地域の住民や地域への愛着を育てていけるように協力していきたい。 				
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ■学力やマナーといった社会の中で生きていく上で必要な基礎力を身に付けるための指導をさらに丁寧に行う必要がある。特にこれまでの指導を踏まえ、集団として教育体制とそれぞれ異なった課題を抱える生徒一人ひとりにきめ細かく対応する個別的教育体制を整えたい。また、指導体制を整理することで、本校の魅力を深め、発信していきたい。 ■平成27年度より地方創生教育を推進し、生徒たちの自己有用感や課題解決力を高めることができ、一定の効果や将来の方向性を確認することができた。地方創生教育をベースにししながら将来の学校改革を視野に入れた学校の特色化を具体的に進めていきたい。 				